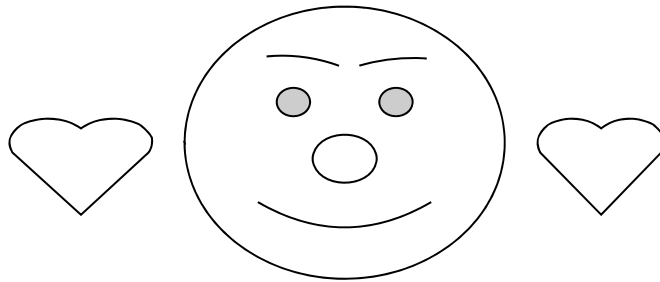


それでもケータイを持たせますか？

平成21年度母親委員会
グループ別研修 Bグループ



第一小学校
向本折小学校
安宅小学校
犬丸小学校
日末小学校
月津小学校
金野小学校
能美小学校

＜テーマの設定理由＞

第二回母親委員会で矢原前小松市教育長の「ケータイを考える」とのテーマで小中学校の携帯をとりまく問題点についてお話をして頂きました。

ケータイ問題に取り組む石川県として全国初の『子供の携帯はダメ』という「いしかわこども総合条例」が6月29日に可決されて来年1月より施行されることになりました。

そこで私達は子供を持つ親としてケータイがもたらす危険性を把握することが大切と感じ調べてみる事にしました。

本当に子供たちにケータイは必要なののでしょうか？

①「携帯」と「ケータイ」のおとなとこどもの携帯電話観の違い

おとな→電話・メール（伝言機能）

こども→メール・インターネット（情報端末）

というお話を矢原先生にさせていただきました。

しかし実際グループの中では小学生の子供に携帯を持たせないし持たせる予定もないという話となりました。親自身も電話とメール機能しか使わないし、子供達もそういう機能の使い方しか知らないという話となりました。知らない子供に興味を抱くような行動は控えた方が良くはないのでしょうか？

電話メールしか知らない子供に大人が情報を与えてしまうのではないかとの意見がでました。

②保護者の想像を絶する「ケータイ」のインターネット

○実際にあった体験談です○

ある会で占いサイトの話で盛り上がり脳内メーカーや姓名判断などでみんな盛り上がっていました。あまりケータイでのインターネットに興味がなかったのですが周りの人達につられて自分の携帯で占いサイトに『**無料**』という言葉に安心して入会しアクセスをしました。1回目は無料だったので子供の占いをしようとした時、料金が発生するのが分かりすぐにアクセスを止めました。

その後「5分おき」ぐらいにメールが届き時間も真夜中と関係なく送られてきました。その後も朝まで50件以上のメールが送られ続けました。

私自身もどうしたら良いのか分からず、携帯ショップに行きメールが来なくなるように設定してもらいました。

* 大人でも対処できない事が子供達にできるかとても不安になりました。

『**無料**』という言葉に安心して安易にアクセスした結果怖い体験をすることになりました。

ある資料によると

『変なサイトをクリックしたら、5万円の利用料金を3日以内に支払えという請求がきた』*14歳男子

③『メールができない携帯ならいらない』

メールが人間関係や友情の証という矢原先生のお話があり

その中で10分返信がないと友達ではないというアンケートの結果

高校生→13%

中学生→11%

○いじめにつながる心配○

ある資料によると

『夜遅くメールが届き、返信をしなかったら、翌朝学校で口を聞いてくれなかった』*12歳女子

ある先生のお話を頂きました

『ケータイが当たり前になる前のいじめは日中の学校内で色々あったので先生の目にも留まりやすく、いじめられて思いつめて放課後に飛び降りるという行動を止めることが出来た。』

しかし最近は携帯の中で夜中にメールでいじめられて朝思いつめて学校にきてすぐに飛び降りる。先生の目に留まりにくいので止められない。』

極端な話ですが、そういう事もありうるという話を聞きました。

人生経験の少ない子供たち、人間関係がまだ出来ていない子供たちに本当に携帯は必要なのか?・・・あらためて思いました。

『会話』化するメール ×

人間関係は会話から ○

④子供がプロフでばらまく個人情報危険がいっぱいです

学校・クラス・住所・名前・写真の順に危険度が増します。

子供たちは危険性を感じていない

個人情報(特定)を出す事によってどういう危険性があるのかを知らないのではないのでしょうか。

- ・ 不特定多数の人がみる事を知っているのか?
- ・ 同世代の子しかみてないと思っているのでは?
- ・ 写真を載せる事により悪用される場合がある事を知っているのか?

という疑問点もあがりました。

⑤小松市のケータイ状況は

★所有率

小学生 10.5%

中学生 31.5%

★プロフ

小学生 3%

中学生 8%

そこである少年犯罪の記事です

2007年11月、携帯電話のサイトで知り合ったある市内の女子中学生（14歳）にみだらな性行為をしたとして、男子専門学生（20歳）を逮捕しました。

少女たちは「メル友をつくりたい」「年上の異性に興味がある」など軽い気持ちでアクセスしました。

中二＝当時（13歳）は

「最初はプロフ（自己紹介）の写真を見てかわいいねと言われたり、そのうち悩みを聞いてくれるようになったから、年上の男の人は優しい」と思った。

際立つ特徴は42人の被害者のうち18歳未満が39人と9割を占め、被害者全員が携帯からの接続ということがわかりました。

★一番使用する機能

小学生 電話 46%

中学生 メール 58%

⑥インターネット機能付きの携帯電話を持たせるのは日本だけです。

⑦予想される危険について子供とよく話し合しましょう

★ルール・フィルタリングについて

逆に子供たちに危険性を与えてしまう事もあるから危険ではないのか？

＊特に小学生に関しては

↓

しかし何も知らないで使うより、知ってて使う方が簡単に見れないのではないのか？

親より友達の情報を信じてしまい、使ってしまうこともあるのでは？

という意見もありました。

⑧ケータイだけではない人間関係作りを

外遊び、家族の会話を増やす

中学まで友達が大事な時期に親が子供にケータイを渡したら

↓

時間も関係ないメールが会話化する

メール「文面、活字」では喜怒哀楽は伝わらないのではないのでしょうか。

相手の反応が見えない分不安をあおる事や

友達同士誤解を招くことになる

いじめにつながることもあるのではないのでしょうか？

ケータイを持つ → 人間関係を作るのは難しい

人間関係を作る → ケータイを持たせても良いのでしょうか？

⑨文化はケータイからだけではあまりに寂しいのではないのでしょうか？

ケータイの長所を生かしたライフスタイルのすすめ方について

例えば A 分からない漢字があって自宅のインターネットで調べた

B 分からない言語があって図書館の辞書で調べた。

実際、大人が A や B で調べても図書館の辞書の調べ方を知っているから A が便利という事になる

しかし・・・

今の子供たちは分からないことがあればネットで検索すれば分かるので図書館などの辞書の調べ方が分からない子供たちは世の中からネットがなくなったらどうなるのでしょうか？

分からない入り口が便利過ぎる世の中（ネット、電子辞書、電卓など）便利な道具（ケータイなど）からスタートしたら子供たちがダメになるのではないのでしょうか？

親が本物の良さを教えてあげるには、どんなに忙しくても親が子供の手本となり、子供の前ではネットを使わない努力をしなければならないと思いました。

それこそが、親である私達大人の役目ではないのでしょうか。

⑩『ケータイ』問題は親のあり方を問う **警鐘**

子供が勝手に契約できないので

最終判断は親 「**親の責任**」 です。



まとめ

- この度、研究発表をするのにあたり、数回会議を開きグループ全員で考え、話し合いました。
- 正直小学生の保護者としてまだ実感がわからないのが本音でした。
- またPTA役員をしていなければケータイ問題に関心がなかったかもしれないし、PTA活動にかかわっている保護者にしかわからない事なのかもしれませんという思いにもなりました。
- 実際、小松市内の小学生の保護者がケータイについての問題点、危険性を何人の人が知っているだろうか？との疑問点もあがりました。
- 私達が心から愛してやまない子供たちを守るのは私達親の務めです。全てを社会や環境の責任にするのではなく、今こそ親子の会話を取り戻していただきたく、今後子供を持つ親がきちんとした危険性をもって指導していかなければいけないと実感致しました。知らないで渡すより知って渡した方が良い事は明らかなです。各学校に「ケータイ」についての話を広めていただきたいとグループB班ではそのような思いとなりました。